

甲賀市における家庭教育支援の取組

甲賀市	本事業開始年度 平成 23 年度	家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容		A:家庭教育支援チーム数 (1)チーム	
■ 地域人材の養成		B:家庭教育支援員数 (3)人	
■ 家庭教育支援体制の構築		C:家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 (2)か所	
■ 家庭教育を支援する取組		D:前項(C)の配置場所名 (子育て政策課、水口子育て支援センター)	
□ 訪問型家庭教育支援活動の実施			
年間活動日数(のべ)	(20日)		

■ 家庭教育を取り巻く現状

市では、新しく造成された住宅地が増え、核家族、共働き家庭が急増し、仕事と家事と子育ての中、日々の忙しさから子どもとゆっくり向き合う時間が取れない家庭が多い。加えて、地域での人間関係の希薄化などで、身近な相談相手が無く、育児不安を抱える保護者が増加している。また、親と同居、近居であっても祖父母世代との考え方の違いにより、育児に戸惑いを覚える保護者もいる。

■ 家庭教育支援で目指す姿(課題解決のために…)

- ・各サポーター(子育て、ブックスタート)の育成・登録・活動により、地域の家庭教育支援の意識を高め、市と地域が協力して子育て世代のサポートができるようにする。
- ・子どもにとって家庭が一番安心できる場所でいられるように、家庭の軸である父親や母親、時には祖父母に働きかけ、子どもが親から愛されていると感じ自尊心を高めていける家庭教育支援をめざす。

■ 本年度の活動

- (1)地域人材の養成等
 - ・ブックスタートサポーター研修会
- (2)学習講座・行事の実施等
 - ・ブックスタート事業(年間 24 回)
 - ・子育て親育ち講座(保育園・幼稚園、小学校)
 - ・いまどきの孫育て講座



【 子育て親育ち講座(命の学習) 】

■ 特徴的な取組

小学校を対象にした子育て親育ち講座(命の学習)では、助産師を講師に招き、体験や映像を交えて、命の大切さについて学習する。

■ 本年度の成果

- ・ブックスタートサポーター研修の実施。次年度の読み聞かせサポーターの追加募集をし、講習を行った。
- ・保育園、幼稚園小学校で、子育て親育ち講座の実施件数を増やすことができた。



【 いまどき孫育て講座 】

■ 今後の課題

- ・家庭教育に係る関係機関と連携をとり、より効果的な支援につなげる。
- ・子育てに関する保護者にとって有益な情報の提供を拡大していく。

報告書記入者(子育て政策課職員)

“親力”アップをめざして～甲賀市の家庭教育支援～

■ 活動の具体的内容

○地域人材の養成等

- ・ブックスタートサポーター研修会

対象者／ブックスタート読み聞かせサポーター

絵本の読み聞かせの方法について、話し方、絵本の見せ方などを、図書館司書より実践的な指導を受けた。子育て支援センター職員より、乳幼児期における発達と、子育て家庭の実情についての講話、子育て支援センターの役割について講習を実施した。

○家庭教育支援チームの設置、実践等

- ・4か月健診でのブックスタート事業。サポーターによる絵本の読み聞かせの実施。ブックスタート絵本、ブックバックの提供。図書館の利用方法や、子育て支援センターの情報の提供。事業終了後に、毎回サポーター・職員・図書館司書・支援センター保育士で集まり反省会を行い、個別対応の注意事項や、問題点の共有を行い改善に努めた。

○学習講座・行事の実施等

- ・子育て親育ち講座

<保育園・幼稚園、10園12回実施>

講座名/「音楽と楽器を使用し、心と身体をほぐす」:ミュージックケア、
その他(ヨガ、バランスボール、リトミック、バレエ)

講座名/「大事なからだ 大事ないのち」:助産師による講話・・・3園

講座名/「噛むことから始まる“食”の大切さ」:講話

講座名/「子ども達が生きていく時代 これから大切にしていきたいこと」:講話

<小学校、6校5回実施>

講座名/「命の奇跡～大人になる体の変化、心の変化～」/「10歳になった君たちへ～育ちゆく体とわたし～」

助産師による講話、妊婦体験、赤ちゃん人形を用いてお世話体験。

- ・いまだきの孫育て講座

時代や社会変化による子育て事情の変遷を知ることで、親世代と祖父母世代の意識ギャップの緩和をはかり、乳幼児期、学童期の孫とのかわり方や、祖父母の役割の理解を深めることを目的に実施した。

○保護者に対する情報提供等

- ・家庭教育についてのブックレットを4か月健診に実施するブックスタート時に配付(年間24回、約500冊配付)

- ・10か月健診では、ブックスタートのフォローアップとして読み聞かせの啓発活動を実施。

- ・講座実施時や各子育て支援センターで祖父母のための子育てリーフレットを配付。

- ・いまだき孫育て講座、ブックスタートサポーター養成講座の実施については、チラシの掲示や、ホームページ、LINE配信を利用し周知を行った。

■ 実施に当たっての工夫

- 園や小学校で実施する子育て親育ち講座では、実施園や小学校の規模や要望に応じて講師を紹介した。また、座学だけでなく、体験型の講座も多く実施した。

■ 事業の成果

- 園での講座では、リトミックやミュージックケア、バランスボール、バレエを親子で体験し、家庭でも親子での触れ合い遊びに役立てることができ、家庭の教育力の向上を図ることができた。

- 園、小学校で助産師による命の授業を実施することで、生命誕生の場に携わる現場から、命は奇跡的な出会いと多くの人の支えや見守りにより誕生したかけがえのないものであることを伝え、実感してもらうことができた。また、思春期の心と体の変化について理解を深め、自他の命・人権を尊重することや命を輝かせる生き方や責任ある行動についても考える機会となった。

- ブックスタート講習の実施でサポーターの絵本の読み聞かせの質の向上を図ることができた。

- いまだき孫育て講座を実施し、孫との関わり方や、子育てのサポートの仕方についての講話で祖父母の役割の理解を深めることができた。

■ 事業実施上の課題

- 子育て親育ち講座の実施園・校は限られている状況であるが、新たに実施する園・小学校が増加傾向にあるため、さらなる周知と、ニーズに合わせた、講習情報の提供を行う必要がある。



【ブックスタート事業
(絵本の読み聞かせの様子)】



【子育て親育ち講座(園)
(ミュージックケアの様子)】

報告書記入者(子育て政策課 職員)